



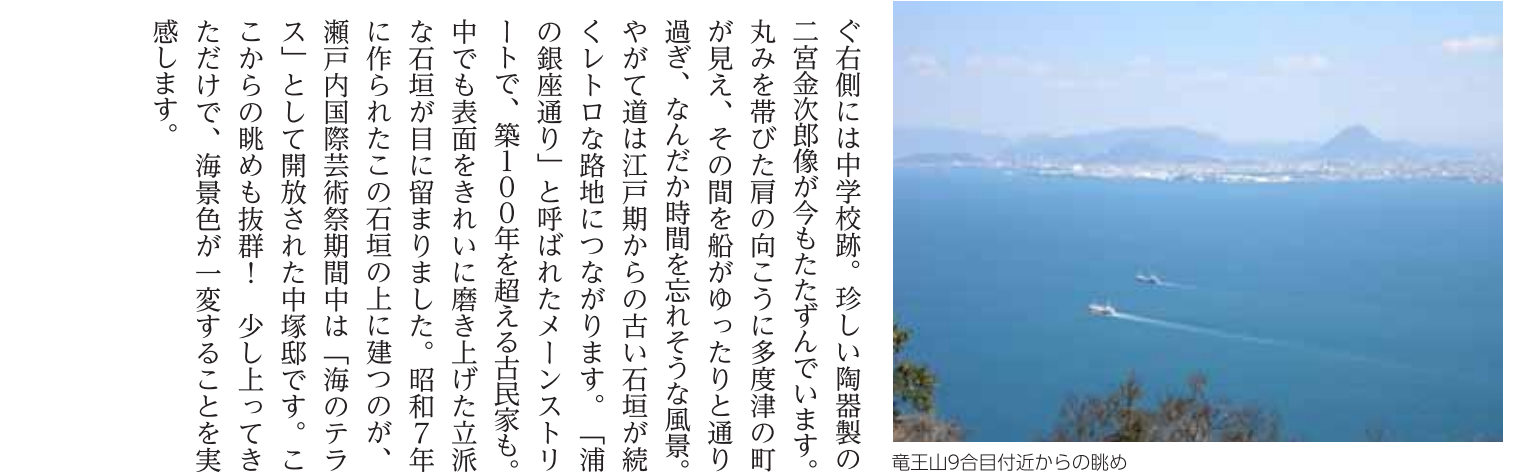
浜地区の防波堤から竜王山を望む

かつて「この辺りで一番高く見える」ことから名付けられたとも言われる高見島、標高約300mの竜王山山頂付近からの眺めは圧巻です。

一方、山全体がきれいに眺められるスポットもあると聞いて港から海沿いに左へ進んでみました。

蛭子神社を過ぎ、道がぐっと右へ曲がる辺りに小さな砂浜が見えてきます。浜から海に突き出した防波堤の突端まで進んで振り返ると、竜王山の優美な稜線が視界いっぱい広がって、なるほど迫力満点！ 思わず背筋が伸びる心地です。

来た道に戻り、多度津町高見出張所を過ぎてすぐの分かれ道には、古い井戸。思わず見落としてしまいそうですが、実は「満濃池の井戸」と呼ばれ、満濃池につながっているという伝説が。水の神・竜王をまつる竜王山山頂「龍王宮」と並んで、飲み水を確保するのに苦労した昔の人々の、水に対する思いがしのばれる史跡です。



竜王山9合目付近からの眺め

日常と歴史が重なる風景 ロマンあふれる時間旅行

多度津町の西北7・4キロ、フェリーで約25分の沖合に浮かぶきれいな三角型の島影は、高見島です。塩飽諸島で2番目に高い竜王山の堂々たる姿に抱かれて――。



エリア 高見島

次大きな角、「制立場」と呼ばれる辺りは、島の行政の中心部といったところ。そこから左に階段を上っていくと「大聖寺」、さらにもう少し上がるとこの辺りで最も高い景色が見える高台。島の出身で徳川幕府のオランダ留学生だった山下岩吉が晩年を過ごした家がすぐそばに建っています。

何げない眺めの一つ一つにも、明治江戸、そしてもっと古くから歴史のうねりの渦中で活躍した塩飽水夫の足跡が刻まれています。当たり前のよう日常風景と重なる歴史の息吹を、確かに感じたひとときでした。

〈おわり〉



浦の銀座通り



中塚邸からの海景色

歴史も自然も魅力たっぷり。 気軽に立ち寄ってほしい

高見島応援団 さざえ隊代表 西山 市朗さん



西山さん

今回島を案内してくれたのは、島で生まれ育ち、島の歴史に詳しい西山さん。「昔はその辺の浜でアサリを掘ってみそ汁の具にしたり、小遣い稼ぎにしてみました」。歴史に興味を持ったのは大学時代。以来40年以上、島の民俗や歴史への造詣を深めています。「島の出身者はさまざまな歴史に深く関わっているんです。塩飽大工として岡山の吉備津神社をはじめ各地の重要建築物を手掛けていますし、西郷隆盛と朝廷の間を取り持った京都清水寺の僧・月照上人の母は島の出身でした。咸臨丸など歴史に名を残す船にも高見の水夫が乗り組んでいて、子孫の縁は今も続いています」。巧みな語り口で島のことを教えてくれます。

瀬戸内国際芸術祭ではボランティアサポーター「さざえ隊」として活躍、来場者のガイドなども務めました。「江戸時代は1500人くらいいた島の人口も、今や50人ほど。でも芸術祭期間中の多い日は1700人近く、アートせとうちでも毎日100人近くが来てくれました。さざえ隊も結成当時から人数が増えましたが、若い人にもっと参加してもらいたいところ。イベント中だけでなく、島を知ってもらい、立ち寄ってくれる人を増やしたい。歴史もちろんです。動植物に注目するのも面白いと思いますよ」と、穏やかながらも熱意を込めて語ってくれました。